

嚥下のリハビリテーション

代償的アプローチ法

現状の嚥下機能を最大限に活用して誤嚥のリスクを最小限にする

- 1) 嚥下姿勢の調整: 上向き嚥下 → 頸部前屈位
- 2) 食形態の調整: 市販の嚥下食の活用

治療的アプローチ法

麻痺や障害部位に働きかけて、嚥下機能の代償や補強・改善を目指す

- 1) 嚥下反射惹起促通: 咽頭冷刺激
- 2) 嚥下関連器官の機能訓練: 舌の可動訓練、構音訓練
プッシング法、ブローイング法
頭部挙上訓練法 (Shaker法)
- 3) 咽頭期嚥下の改善・強化訓練: 息止め嚥下法、Mendelsohn法
アンカー強調嚥下法、tongue holding法
- 4) 嚥下パターン訓練